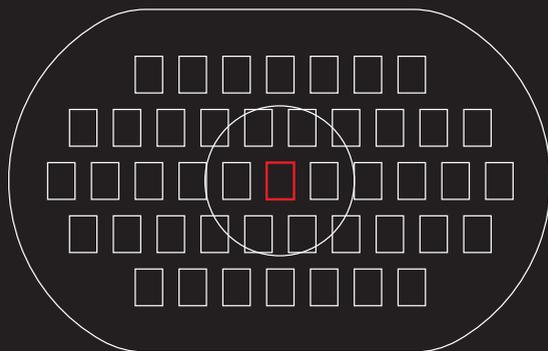


Canon

EOS-1D

Mark III

AIサーボAF
カスタム機能解説書



すべては最高の瞬間のために

C.Fn III

—AFに関する詳細な設定を行うことができる
カスタムファンクションのカテゴリー—

EOS-1D Mark IIIのカスタム機能(カスタムファンクション C.Fn)には、全部で57の機能があり、使用スタイル・用途に合わせてきめ細かな設定が可能です。主に動きのある被写体を撮影するために使用する、AIサーボAFに関連した各種のカスタム機能は、C.Fn III「AF・ドライブ」の

グループにあり、「C.Fn III-2」「C.Fn III-3」「C.Fn III-4」「C.Fn III-8」の4つのカスタム機能を設定することで、AIサーボAFの動作を自分の好みに変えることができます。ここでは、ピント合焦位置の微調整に関わる「C.Fn III-7」を加えた、5つのカスタム機能について解説いたします。

機能解説編—AIサーボAFに関連するC.Fn III項目—それぞれの項目を理解しよう—



III-2
AIサーボ時の
被写体追従感度
..... P020



III-3
AIサーボ1コマ目/
2コマ目で降動作
..... P021



III-4
AIサーボ時の
測距点選択特性
..... P022



III-8
任意選択時の
AFフレーム領域拡大
..... P023



III-7
AFマイクロ
アジャストメント
..... P025

すべては最高の瞬間のために—

標準設定が基本ポジション。
多様なシーン、特定の撮影意図に対応する場合に
適切なC.Fn設定を行うことで
より望ましいフォーカシングが可能に



EOS-1D Mark IIIのAIサーボAFは標準の設定で、さまざまな撮影状況、移動する被写体に幅広く対応することが可能です。しかし特定の撮影条件や普段撮り慣れていないシーンにおいては、

C.Fnの設定を変更することで、AIサーボAFによるピント合わせがより適切に行えるケースがあります。この冊子では、これら特定の条件に対応するC.Fn IIIの設定例をご紹介します。

実践編—EOS-1D Mark III AIサーボAF被写体シーン別C.Fn設定事例

撮影ケースとそれに対応するC.Fn設定例

| 初期設定 | 標準設定 | | |
|------|--|---|------------|
| | 動きのある一般的な被写体など さまざまなシーンに対応する万能な設定 | III-2: 0 III-3: 0 III-4: 0 III-8: 0 | P004 |
| | CASE 001 高速で移動する被写体を 追いつけながら撮る | III-2: -1 III-3: 1 III-4: 0 III-8: 2 | P006 |
| | CASE 002 照明が暗い室内競技で 素早い動きに対応する | III-2: -1 III-3: 0 III-4: 0 III-8: 2 | P008 |
| | CASE 003 水面下に何度も隠れる平泳ぎで 選手の顔にピントを合わせ続ける | III-2: -1 III-3: 0 III-4: 0 III-8: 2 | P010 |

| | | | |
|--|---|---|------------|
| | CASE 004 短距離走のゴールシーンで 狙った走者にピントを合わせ続ける | III-2: 0 III-3: 1 III-4: 1 III-8: 1 | P012 |
| | CASE 005 複数の被写体が複雑に交錯するなかで 特定のプレーヤーに合わせ続ける | III-2: 0 III-3: 0 III-4: 1 III-8: 1 | P014 |
| | CASE 006 前後左右への すばやい動きに対応する | III-2: -2 III-3: 0 III-4: 0 III-8: 2 | P016 |
| | CASE 007 クロスプレーで 狙ったプレーヤーだけを追い続ける | III-2: 0 III-3: 0 III-4: 1 III-8: 2 | P018 |



実践編 被写体シーン別C.Fn設定事例

標準 動きのある一般的な被写体など
設定 さまざまなシーンに対応する万能な設定

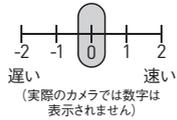
 任意選択したAFフレーム

EF400mm F2.8L IS USM 1/1000sec F4 ISO250

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従敏感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目で降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大



標準設定は、AIサーボAFに関連する4つのカスタム機能の変更を行わない設定状態のことです。

この設定は一般的な動体撮影に幅広く利用できます。画面に対し、捉える被写体が十分な大きさで、動きもある程度予測がつく状況下で力を発揮します。

ですので、動体撮影における基本ポジションは、この標準設定と考えてください。

AFをオンにし、AFフレームで被写体を捉え、1秒ほど追従させてからシャッターをきるようにすると、1コマ目のピント精度が向上します。



GOOD!

CASE 001 高速で移動する被写体を

追いかけて撮る

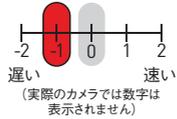


「AFフレームの領域」を拡大する

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従敏感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大



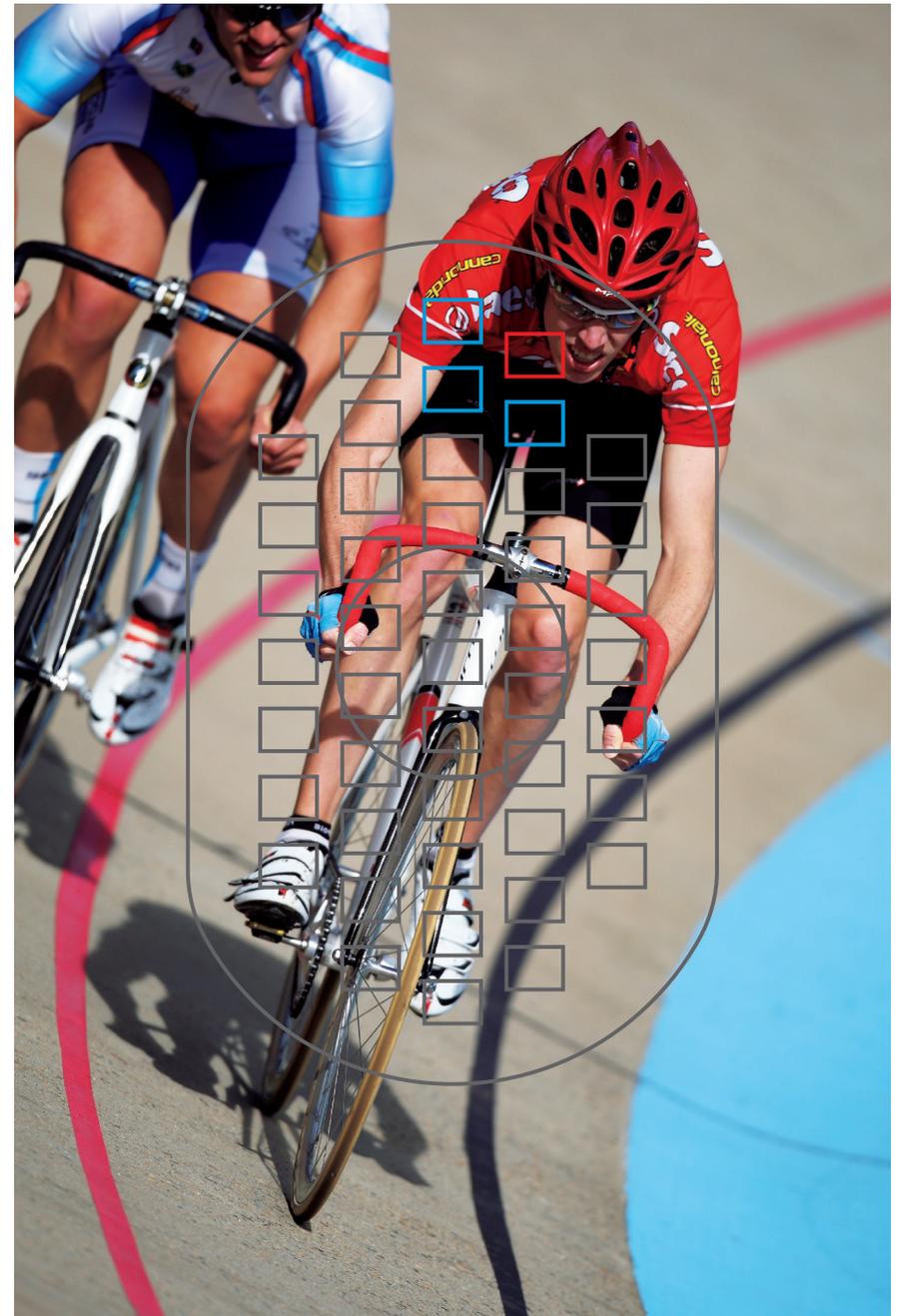
□ 任意選択したAFフレーム
□ アシスト測距点

自転車競技やスピードスケートのコーナリングは、被写体を捉え続けることが難しい撮影シーンです。それでも、被写体までの距離がある程度遠ければ「標準設定」で問題ありませんが、撮影距離が短く、被写体を捉えるためにレンズを素早く動かさなければならない場合には、選択したAFフレームに被写体を重ね続けるのが難しくなります。

このようなときは、まずIII-8を「2」に設定して、選択したAFフレームと周囲のアシスト測距点を活用します。測距点数を増やしてAF撮影を行うことで、1点では追従が難しい被写体でも捕捉し続けることができます。

またIII-2は「-1」に設定。これにより、増やした測距点からも被写体のごく短時間、外れてしまう場合でも、背景のほうへとピントが動いてしまう確率を下げることができます。

III-3の「1」への変更は、高速連続撮影速度を確保し、決定的シーンをより多く撮るための設定です。この設定は、撮影状況が十分に明るく、かつ上記のIII-8とIII-2の設定により、十分なピント合わせが行えることを前提に連続撮影速度を高く保つために行うものです。



GOOD!

EF400mm F2.8L IS USM 1/3200sec F2.8 ISO100

CASE 002

照明が暗い室内競技で 素早い動きに対応する

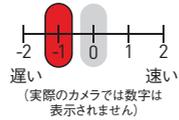


「ピント優先/被写体追従優先」を選択

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従敏感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目で降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大



体操競技における跳馬や床運動の宙返りシーンなど、被写体の動きが素早くかつ予想が付きにくいシーンは、CASE 001と同様に、単一のAFフレームで被写体を捕捉し続けるのが難しい撮影条件です。

ですので、設定の変更も同じようにIII-8の「2」への変更で、使用する測距点数を増やし、III-2の「-1」への変更で、背景にピントが影響されてしまう確率を下げる設定が効果的です。

ただし体操のような室内競技で、撮影環境が暗い場合、被写体の輝度やコントラストの低下によって、連続撮影速度が低下することがあります。このような状況下ではIII-3は「0」のままとして、確実に被写体を追従することを優先とする方が良いでしょう。

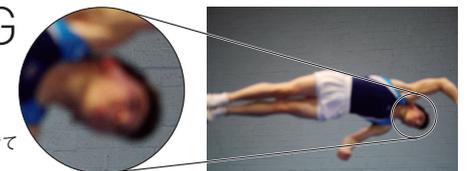
□ 任意選択したAFフレーム □ アシスト測距点
EF200mmF2L IS USM 1/800sec F2.0 ISO2000



GOOD!

NG

背景にピントが抜けてしまったNG例。



CASE 003

水面下に何度も隠れる平泳ぎで 選手の顔にピントを合わせ続ける



「被写体追従敏感度」を「遅い：-2」にセット

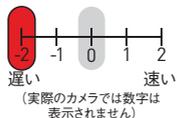
□ 任意選択したAFフレーム □ アシスト測距点

EF300mm F2.8L IS USM 1/4000sec F2.8 ISO200

C.Fn セッティング

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従敏感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大



選手の顔が見え隠れする水泳の平泳ぎは、標準設定のままでは、選手が水面下に隠れたときに背景へとピントが動き、水面上に現れたときに選手にピントを合わせることができない場合があります。

このような場合は、III-2をあえて最も遅い「-2」にセットします。すると、カメラは選手以外のものを障害物とみなします。つまり、選手がいなくなり、測距点に背景が重なった場合も、それは障害物とみなしますので、ピントが背景に引かれる確率が少なくなります。

III-8は「2」に設定し、多くの測距点数を生かして被写体の効果的な捕捉を行います。

しかし、水面下に潜る時間が長いなどにより、ピントが背景に抜けてしまう場合もあります。それに備えIII-4は「0」のままにしておき、背景にピントが動いたときに、素早く手前の被写体にピント合わせが行えるようにします。



GOOD!

「被写体追従敏感度」を「遅い：-2」にセットすると、被写体が水面下にもぐってしまっても、ピント位置は、一定の時間、合わせた場所にとどまり続けます。



CASE 004 短距離走のゴールシーンで 狙った走者にピントを合わせ続ける

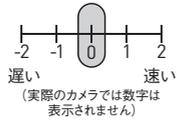


「測距連続性優先」にセット

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大



陸上のトラック競技のゴールシーンなどで、1人の選手を追い続けて連続撮影しているときに、その選手の手前に別の選手が入り込んでくる場合があります。こうしたケースでも狙った選手にピントを合わせ続ける設定です。

まずIII-8は「1」で左右（縦位置では上下）1測距点を有効として、狙っている選手の動きに対応します。

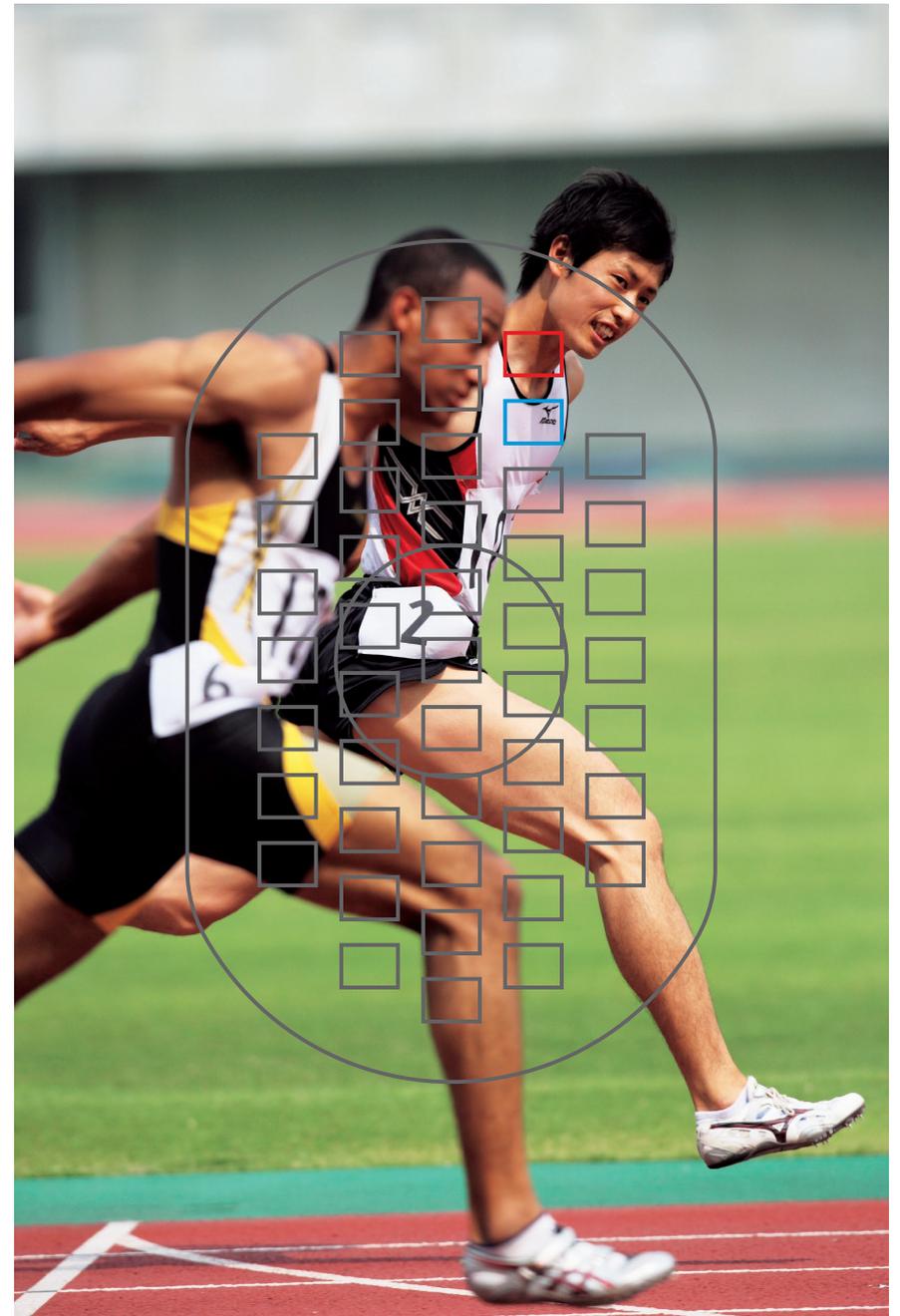
そのうえでIII-4を「1」とします。これにより、手前に目的外の選手が重なったときでも、その選手は障害物と判断し、奥の選手にピントを合わせ続けることができます。

またIII-3の「1」への変更は、CASE 001の自転車競技の例と同様に、連続撮影速度（コマ速）の高さを確保することで、ゴールの瞬間などの決定的シーンをより数多くのコマを撮るようにするための設定です。

- 任意選択したAFフレーム
- アシスト測距点



NG



GOOD!

EF400mm F2.8L IS USM 1/1600sec F2.8 ISO100

複数の被写体が複雑に交錯するなかで 特定のプレーヤーに合わせ続ける

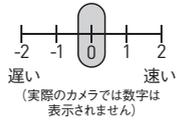


「測距連続性優先」にセット

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大



サッカーやラグビー、バスケットボールなどは、複数の選手が複雑に交錯するため、ピント合わせが特に難しい撮影です。

このような場合は、CASE 004の手前に他の選手が重なる場合の例と同様の設定が有効となります。つまりIII-8の「1」で目的の選手の動きに対応しながら、III-4は「1」で、手前に入ってきた被写体を障害物とみなす設定とします。これにより狙った選手を捕捉し続けることができます。ただし「1」の設定の場合、いったん背景にピントが抜けてしまうと、連続撮影中はピントが戻りにくくなります。その場合は一度AFをオフにしてからAFを直すことが、目的被写体へのより素早いピントの復帰方法です。

陸上競技のゴールシーンなどよりも、動きの複雑さへの対応が重要なため、III-3は「0」のままとして、被写体への追従精度を高く保ちます。



GOOD!

□ 任意選択したAFフレーム □ アシスト測距点

EF400mm F2.8L IS USM 1/2000sec F3.5 ISO200

NG

「測距点中心優先」にセットすると、高精度なAFが俊敏に動きすぎて手前の被写体にピントが合ってしまうことがあります。



CASE 006

前後左右への すばやい動きに対応する



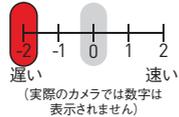
「被写体追従敏感度」を「遅い: -2」にセット

□ 任意選択したAFフレーム □ アシスト測距点
EF400mm F2.8L IS USM 1/5000sec F2.8 ISO200

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従敏感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大

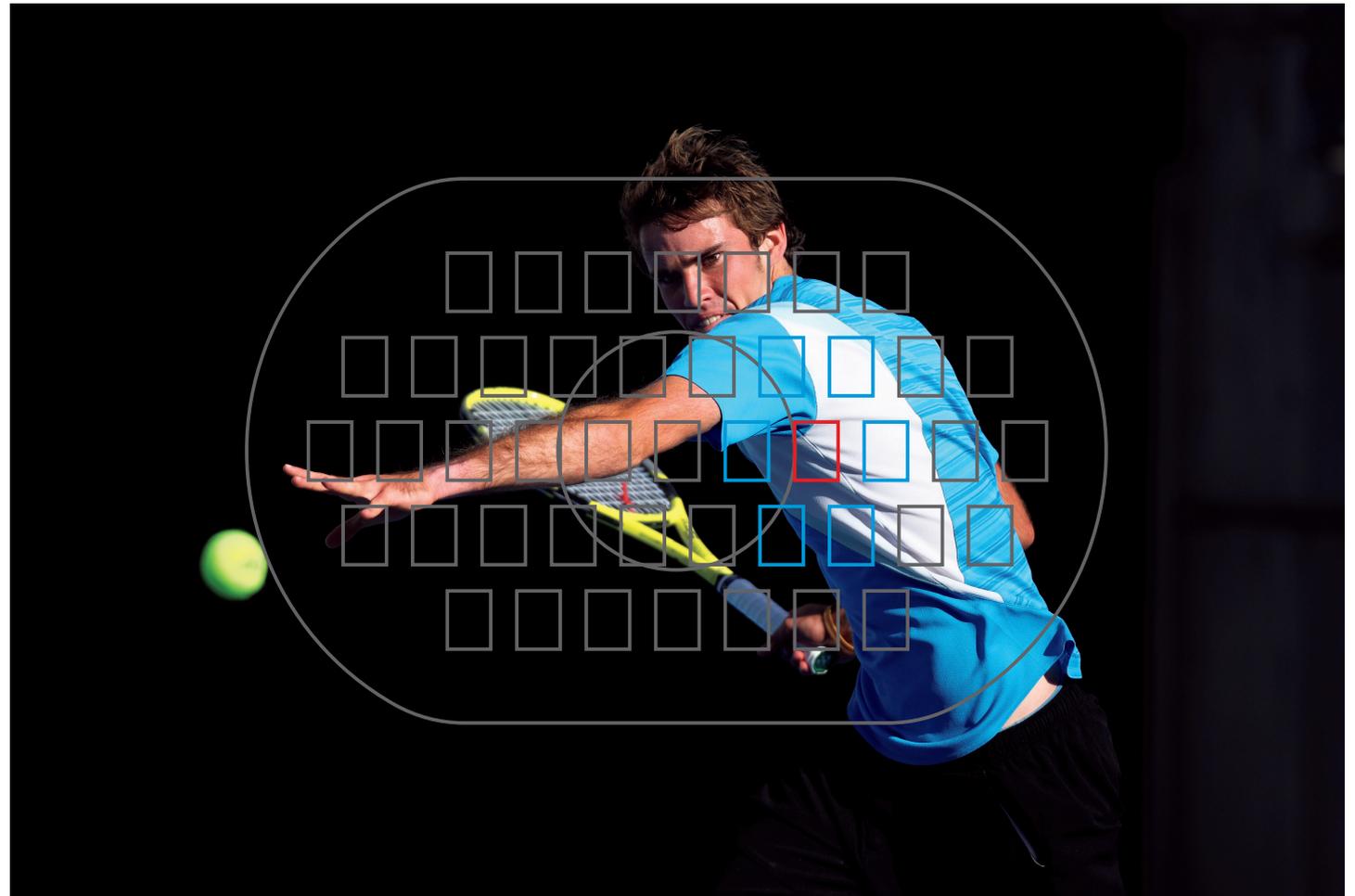


撮影対象となる選手が瞬時に動き、捕捉するのが難しく、なおかつ目的被写体の手前には他の選手などが入ることが考えにくい競技（テニスなど）に適した設定例です。

まず、選手の俊敏な動きに対応するために、測距点数を最も多く使用するIII-8を「2」に設定します。

そして、拡張した測距点からも選手が外れても、背景にピントが抜けにくくなるようにIII-2を「-2」の設定にします。

それでも、選手が急激に反対側に動くなどして、背景にピントが抜けてしまう場合もあります。その際、選択したAFフレームで選手を再度捉えてから、すみやかにピントが合わせられるように、III-4は「0」のままとしておくのが効果的です。



GOOD!

CASE 007 クロスプレーで狙った プレーヤーだけを追い続ける

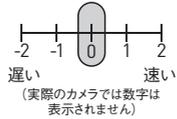


「測距連続性優先」を選択

C.Fn セットアップ

C.Fn III-2

AIサーボ時の被写体追従感度



C.Fn III-3

AIサーボ1コマ目/2コマ目で降動作



C.Fn III-4

AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-8

任意選択時のAFフレーム領域拡大

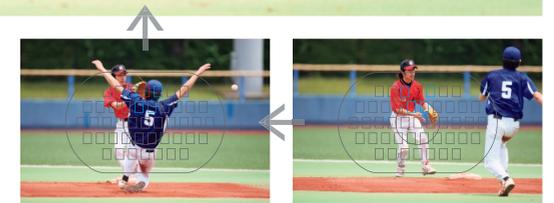


野球の塁上でのクロスプレーも、CASE 005のサッカーなどで選手が交錯するシーンと同様に、手前の選手を障害物として無視する設定が有効です。

III-8は「2」で、目的とする選手の動きに対応。そしてIII-4の「1」で、手前に入ってきた被写体を障害物とみなす設定とします。CASE 005の設定例と異なるのは、III-8をより多くの測距点を使用する「2」とすることで、素早く動き捕捉が難しい被写体へのAF追従精度を高めることができる点です。



GOOD!



C.Fn III-2

被写体の切り替わりまでの判定時間を設定
AIサーボ時の被写体追従敏感度

| | | | | | | | |
|-----|---------------------------|----|----------------------|---|-------------------|---|----|
| 設定値 | 遅い | -2 | -1 | 0 | 1 | 2 | 速い |
| 機能 | 横切る被写体を障害物として無視 | | 標準 | | 横切った被写体にピントが合いやすい | | |
| ケース | 被写体の手前を横切るものや背景の影響を少なくしたい | | 距離の異なる複数の被写体を次々に撮影する | | | | |

「被写体追従敏感度」では、AFサーボAF時の測距中に、AFフレームを横切る被写体（障害物）に対するAFの敏感度を5段階で設定できます。

【遅い】

「遅い」の方向に設定すると、障害物の影響が少なくなります。

AFフレームを横切る被写体を障害物として無視する割合が高くなりますので、複数のプレーヤーが交錯するシーンにおいて、前を横切る他の選手を無視して、目的のプレーヤーにピントを合わせ続けたい場合などで、「遅い」方向への設定が有効です。

またAFフレームを横切る被写体と同じように、主要な被写体がAFフレームから外れてしまったときにAFフレームに重なる「背景」も障害物として無視します。

ですので、動きが素早く、AFフレームに重ねて捕捉し続けるのが難しい撮影で「遅い」方向への設定が有効となります。

【速い】

「速い」方向に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。

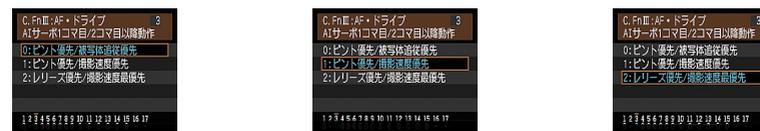
AFフレームに重なった被写体を、障害物では

なく、ピントを合わせるべき被写体として、敏感にピント合わせを行う割合が高まります。

ですから、複数のプレーヤーの中から、最も手前に現れるプレーヤーにピントを合わせたい場合や、ランダムな距離にある複数の被写体を次々に撮影するときに、「速い」方向への設定が有効です。



C.Fn III-3

リリース時の「ピント優先」か「コマ速優先」かを設定
AIサーボ1コマ目/2コマ目以降動作

| | | | |
|-----|------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 設定値 | 0:ピント優先/ 被写体追従優先 | 1:ピント優先/ 撮影速度優先 | 2:リリース優先/ 撮影速度最優先 |
| 機能 | 1コマ目 ピント優先 2コマ目以降 被写体追従優先 | 1コマ目 ピント優先 2コマ目以降 撮影速度優先 | 1コマ目 レリース優先 2コマ目以降 撮影速度最優先 |
| ケース | 被写体への追従を優先するとき | 2コマ目以降のコマ速を高く保つ | 撮影コマ速を何より優先 |

AIサーボAF+連続撮影時における、サーボの作動特性とリリースタイミングの関係を変更することができます。

リリースタイミング、すなわちシャッターがきれるタイミングを、被写体へのピント追従を重視するのか、連続撮影速度（連写コマ速）を重視するのか、といったことが設定できます。

【0:ピント優先/被写体追従優先】

1枚目は、被写体に対するピント合わせが優先されます。連続撮影中（2枚目以降）は、被写体へのピント追従を優先した撮影になります。

【1:ピント優先/撮影速度優先】

1枚目は、被写体に対するピント合わせが優先されます。連続撮影中は、（被写体へのピント追従よりも）連続撮影速度を優先した撮影となります。

【2:リリース優先/撮影速度最優先】

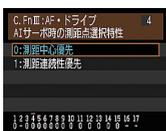
1枚目は、（被写体に対するピント合わせよりも）リリースが優先されます。連続撮影中は「設定1」よりもさらに連続撮影速度を優先した撮影になります。

被写体へのピント追従を優先し、よりピント精度の高い撮影を行いたいときは、「設定0」、1コマ目はピント優先、2コマ目以降は連続撮影速度を優先し、より多くの瞬間を捉えたいときは「設定1」、すべてリリース優先したいときには「設定2」の設定が有効となります。

ただし、撮影する場所の光量が低い、被写体のコントラストが低いなど、ピントの予測演算時間にかかる条件では連続撮影速度を優先する、「設定1、2」は適当ではないことがあります。撮影条件をよく確認して、これらの設定を行ってください。

C.Fn III-4

手前に入ってきた被写体へ移行するか／無視するかを設定
AIサーボ時の測距点選択特性



C.Fn III-4は「自動選択AF」設定時、またはC.Fn III-8の「任意選択時のAFフレーム領域拡大」を設定したときのみ有効です。

設定値 0: 測距中心優先

機能 選択測距点にある被写体に重点的にフォーカスを行なう

ケース 被写体を変更して次々と狙いを変えて撮りたいとき

1: 測距連続性優先

手前に別の被写体が入ったとき障害物として無視する

同一の被写体を追い続けて、手前に入る被写体を無視したいとき

AIサーボAF時の被写体捕捉中、「測距中心」(※)に、捕捉していた被写体の手前に入ったとき、その被写体にピントを合わせるのか、障害物として無視するのかを設定することができます。

※「測距中心」は「自動選択AF」時には中央の測距点のこと、「領域拡大」時は任意に選択したAFフレームのことです。

【0:測距中心優先】

手前に入った被写体にピント合わせが行われず。測距点は「測距中心」に乗り移ります。(AFフレーム自動選択や、C.Fn III-8でのAFフレーム領域拡大により、次々と測距点の乗り移りを行

って撮影がなされます。その測距点が、いったん「測距中心」へと乗り移り、そこから再度自動的な乗り移りによる撮影が行われます)

撮影したい被写体が、一番手前にあるシーンで有効です。

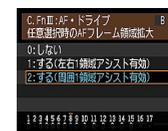
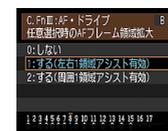
【1:測距連続性優先】

手前に入った被写体を障害物として無視します。直前の測距結果から被写体を追い続けるように、測距点が乗り移って撮影が継続されます。

撮影したい被写体の手前を、他のプレーヤーや柵などが横切るようなシーンで、それらを無視したいときに有効です。

C.Fn III-8

選択したAFフレームを周辺測距点でサポートさせるかどうかを設定
任意選択時のAFフレーム領域拡大



設定値 0: しない

機能 選択AFフレームのみ有効

ケース 選択AFフレームに合わせた被写体のみを追従したい

1: する
左右1領域アシスト有効

選択AFフレームの左右1領域のアシスト測距点が有効に

被写体がAFフレームから左右に外れる可能性が高い

2: する
周囲1領域アシスト有効

選択AFフレームの周囲1領域のアシスト測距点が有効に

被写体の動作が予測難しく、AFフレームから外れる可能性がある

AIサーボAF、またはワンショットAF時のAFフレーム任意選択時に、アシスト測距点を使用して、測距点数を増やしてAF撮影を行うことができるのが、AFフレーム領域拡大です。

任意の1点では被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。例えば、自転車競技など非常に速度の速い競技で、選手に対して近い距離から、カメラを素早くパンしながら撮影しなければならないときなど、1点のAFフレームを被写体に確実に重ね合わせ続けるのが困難な場合に、このAFフレーム領域拡大が有効となります。

任意選択したAFフレームを中心に、周囲の1測距点が有効になります。

増やす測距点数の多い／少ない、そしてアシスト測距点の位置などを考慮して、「設定1」と「設定2」を使い分けるのが効果的です。

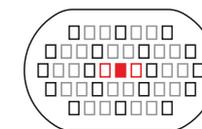
なお、AFフレームの領域拡大は、選択AFフレームを中心に拡大されるため、外寄りのAFフレームを選択したとき、「設定1」の場合は選択AFフレームの内側の1点だけが有効になり、「設定2」の場合は同じく内側の3点ないしは4点のアシスト測距点が有効になります。

【0:しない】

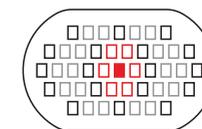
AFフレーム領域拡大を行いません。

【1:する (左右1領域アシスト有効)】

任意選択したAFフレームを中心に、左右の1測距点(縦位置撮影時は上下)が有効になります。



1: 左右1領域拡大



2: 周囲1領域拡大

■ 選択した測距点 □ 拡大した測距点

【2:する (周囲1領域アシスト有効)】



C.Fn III-2 4 8の相互の関連性について

3つのカスタム機能は、それぞれの設定により機能の仕方が変化する

III-8とIII-2 領域拡大のAFフレーム移行は敏感度に優先

| III-8 領域拡大 | III-2 被写体追従敏感度 | 機能 |
|------------|----------------|-------------------------------|
| 有効 | 全設定 | 最適AFフレームあり すぐにAFフレーム移行 |
| 有効 | 全設定 | 最適AFフレームなし 敏感度に応じてピント位置を保持 |
| なし | 全設定 | — 敏感度に応じてピント位置を保持 |

C.Fn III-8 (任意選択時のAFフレーム領域拡大) が有効になっているときは、C.Fn III-2 (AIサーボ時の被写体追従敏感度) の設定に関わらず、被写体を捉えているAFフレームが存在すればただちにAFフレームを移動してピント合わせを行います。

III-8とIII-4 測距点選択特性は、領域拡大有効時のみ機能する

| III-8 領域拡大 | III-4 測距点選択特性 | 機能 |
|------------|---------------|------------------|
| 有効 | 全設定 | — III-4 機能する |
| なし | 全設定 | — III-4 機能しない |

C.Fn III-4 (AIサーボ時の測距点選択特性) はC.Fn III-8 (任意選択時のAFフレーム領域拡大) が有効になっているときか、測距点自動選択のときに機能するものです。

III-8とIII-4、III-2 「測距中心」への測距点移行は敏感度に優先する

| III-8 領域拡大 | III-4 測距点選択特性 | III-2 被写体追従敏感度 | 機能 |
|------------|---------------|----------------|--------------------|
| 有効 | 設定0 (測距中心優先) | 全設定 | AFフレームを測距中心に移行 (※) |
| 有効 | 設定1 (測距連続性優先) | 全設定 | 敏感度に応じてピント位置を保持 |

C.Fn III-8が有効 (領域拡大) か測距点自動選択で、C.Fn III-4が設定0 (測距中心優先) の場合は、C.Fn III-2の追従敏感度設定に関わらず、測距中心に近距離被写体を捉えたとただちにAFフレームを中央 (選択AFフレーム) へ戻し、中央 (選択AFフレーム) でピント合わせを行います。

※ 「測距中心」に近距離被写体を捕捉したとき

C.Fn III-2、4、8の相互の関連性で、ポイントになるのはIII-8の設定です。まずIII-8「AFフレーム領域拡大」が有効になっていなければ (自動選択AF時を除いて) III-4「測距点選択特性」は機能しません。またIII-8が有効になり、領域拡大を行っているときは、III-2「被写体追従敏感度」に優先してAFフレームの移行 (乗り移り) が行われます (最適なAFフレームがないときに、被写体追従敏感度に応じたピント保持が行われま

す)。またIII-4「測距点選択特性」が機能するとき、設定0「測距中心優先」の場合もIII-2に優先してAFフレームの中心への移行が行われます。

簡略化していえば、

「III-8がオフならIII-4は機能しない」

「III-8はIII-2に優先する」

「III-4設定0の効果はIII-2に優先」とまとめることができます。

C.Fn III-7

個別の精度調整でより望ましいピントを求めることができる
AFマイクロアジャストメント



設定値 0: しない

機能 ピント調整を行わない



1: 全レンズ一律調整

全てのレンズに対して
一律の補正量の調整を行なう



2: レンズごとに調整

レンズの名称ごとに設定した
補正量の調整を行なう

AFによるピント合焦位置を微調整できるカスタム機能です。調整範囲は、±20ステップ (−: 前ピン方向/+: 後ピン方向) です。

1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放F値によって異なります。テスト撮影を繰り返して、希望する調整幅への設定を行ってください。

[0: しない]

ピント合焦位置の微調整を行いません。

なお、通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ調整を行ってください。

[1: 全レンズ一律調整]

使用するレンズに関わらず、常に設定量分、ピント合焦位置をシフトして合焦します。

この機能の特殊な使用ケースとして、AFフレームで捕捉する被写体の位置 (例えばプレーヤーの胸など) と、ピントを合わせたい位置 (例えば顔など) が、常に一定量前後に距離があるような場合があります。その際、合焦位置のシフトにより、望ましいピントを得ることも可能です。ただし、調整幅の設定などが難しいので、テスト撮影を繰り返して設定を行ってください。

[2: レンズごとに調整]

レンズの種類 (銘柄) ごとに調整を行い、その設定値をカメラに最大20本分まで登録することができます。登録されたレンズを使用すると、設定量分、ピント合焦位置をシフトして合焦を行います。

AFマイクロアジャストメントの設定

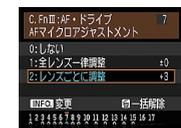
登録画面上において±20ステップの範囲で設定値を決める



「全レンズ一律調整」
「レンズごとに調整」の
いずれかを選びます。



「Info.」ボタンを押すと登録画面になりますので、電子ダイヤルを左右に回して設定量を決定します。



登録を行うと、設定量が各設定項目の右端に表示されます。

撮影に便利なその他のC.Fn等の設定 ISO感度調整、ボタン設定など動体撮影に便利な設定の数々

この「カスタム機能設定書」では、AIサーボAFの動作に関わるカスタム機能について主に解説していますが、実際の動く被写体の撮影においては、例えばISO感度のコントロールなども、重要な設定のポイントとなります。ここでは、そうした動きのある被写体の撮影において便利に使えるC.Fnの設定等をご紹介します。

C.Fn I-3 ISO感度の制御範囲の設定



ISO感度の上限・下限を拡張して使用する*

通常、ISO感度は100～3200まで、1/3ステップで設定可能です。C.Fn I-3で、ISO感度の設定範囲を最大ISO50 (L) ～6400 (H) まで拡張することができます。

*EOS-1Ds Mark IIIではISO感度が異なります。

C.Fn I-8 セイフティシフト



ISO感度の自動的な変化で、明るさの急激な変化に対応できる*

C.Fn I-8を「2」としておくと、プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE時に、被写体の明るさが急激に変化して、適切な露出値が得られないとき、ISO感度がISO100～3200の間で自動的に変化して、適正露出で撮影できます。

*EOS-1Ds Mark IIIではISO感度が異なります。

C.Fn II-2 高感度撮影時のノイズ低減



連続撮影枚数をできるだけ高く保つにはノイズ低減を「しない」に

連続撮影枚数をできるだけ増やしたい場合は、JPEGよりもRAW、RAWよりもJPEGのほうが、連続撮影枚数は多くなります。ISO感度も低めに設定します。当然ながら、RAW+

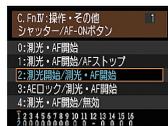
C.Fn III-9 任意選択可能なAFフレーム



マルチコントローラーによる19点AFフレームのダイレクト選択

C.Fn III-9の「3」「4」「5」でマルチコントローラーでAFフレームのダイレクト選択が可能で、「3」では19点すべてのAFフレーム、「4」では内側9点、「5」では外側9点のAFフレームがダイレクトにマルチコントローラーで選択可能となります。

C.Fn IV-1 シャッター／AF-ONボタン



シャッターボタン半押しでAF動作させたくない場合はAF-ONボタンで

シャッターボタン半押しでAFを動作させたくない場合は、C.Fn IV-1を「2」または「3」にセットし、AF-ONボタンでコントロールするようにしておきます。AF-ONボタンは、AF動作を止めるボタンとしても活用可能です。

C.Fn IV-3 測光タイマー中のサブ電子ダイヤル



メインダイヤルで絞り数値／シャッター速度の両方を設定できる

C.Fn IV-3で「3」を選択すると、AFフレーム選択ボタンを押すことによりメインダイヤルで絞り数値、放すとメインダイヤルでシャッター速度が変更されます。メインダイヤルで絞り数値とシャッター速度のコントロールが簡単に行えます。

C.Fn IV-4 撮影時のSETボタン



よく使う機能を押しやすい「SET」ボタンに割り当てると便利

C.Fn IV-4で、画像再生やメニュー表示など、よく使う機能を「SET」ボタンに割り当てることができます。レンズを支える左手を離すことなく、右手でカメラをホールドしたまま操作できるという利点があります。

C.Fn IV-13 リリースタイムラグ最速化



タイムラグを通常より最高で約20%最速化

C.Fn IV-13を「1」にセットすると、タイムラグが通常時に比べ最高約20%短くなります。初期設定で行っているタイムラグの安定化制御を解除することになり、リリースタイムラグが絞り値により変化することになります。 ※絞り開放から約3段までの撮影時に有効です。

登録・呼出 カスタム機能設定状態の登録



よく使用するカスタム機能設定の状態を登録し、呼び出して使用できる

カスタム機能の設定内容を、カメラに3件まで登録することができます。ロードレース用、室内競技用など、撮影シーンに合わせて登録しておくとし便利です。呼び出し操作を行うと、カスタム機能の設定が登録されている内容に瞬時に切り換わります。

シャッターボタン・AF-ONボタン

一定時間以上、競技者が隠れる場合はAFをいったんオフにする



水泳の撮影時、あまりにも長い時間、選手が水面下に隠れているような場合は、どうしても水面にピントを合わせてしまいます。こうした場合はAF-ONボタンから指を離すなど、いったんAFをオフにして、再度AFをオンにするようにしてください。



安全にお使い
いただくために

- ご使用前に取り扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 表示された正しい電源・電圧でお使いください。



キヤノン EOSデジタル ホームページ

canon.jp/eos-d



キヤノンお客様相談センター

デジタルカメラ ***050-555-90002***

受付時間〈平日〉9:00～20:00〈土/日/祝〉10:00～17:00(1/1～3は休ませていただきます。)

※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-3455-9353をご利用ください。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6 CANON STOWER

0809T060

003619 3